

閉店スーパーの再生・開店

住民出資による閉店スーパーの再生・開店 ～ 兵庫県神河町・寺前楽座「まちの灯り」～

1 概要

- 地区唯一のスーパーが、運営会社の経営難から閉店。買い物に不便を感じる住民が急増
- 地元企業や住民出資により、新たな運営会社を設立。地域コミュニティの核を目指す新店舗として再生・開店

2 背景ときっかけ

- 旧店舗は2007年に閉店。2012年度以降は赤字基調となり、2017年8月末に閉店
- 閉店後、町が行った同地区約1,300世帯の住民アンケートでは、約8割が店舗再建を希望
- 再建方針は決まったが、運営業者探しに難航。地元企業、住民有志による出資で、運営会社「株式会社 寺前村振興公社」を設立
- まちを明るくとの思いから、新店舗名を寺前楽座「まちの灯り」として、2018年7月末より再出発

3 取組の内容

- 取組の目的
単なるスーパーではなく、お年寄りや子供を含めた地域コミュニティの核を目指す
- 取組の概要
 - ・店長、従業員12名(旧店舗より復帰)により営業
 - ・年中無休、営業時間は9時～19時
 - ・取扱商品は、生鮮3品、総菜、お弁当を中心に始め、その後、酒の販売も開始。今後、たばこも扱う予定
 - ・住民の交流の場となるスペースも設置
- 行政との関わり
 - ・町が旧店舗の建物・用地を取得、運営会社は無償貸与
 - ・役員と地区代表者らで、営業報告会の開催や住民への利用を呼びかけを実施
 - ・総務省の地域経済循環創造事業による補助金を活用

〈写真・寺前楽座「まちの灯り」店舗外観〉



4 取組の効果

- 住民の利便性や満足度が向上
 - ・「閉店してはじめて不便さを痛感、(今では)このスーパーしか頼れない」との住民の声
 - ・地元生産者の米や野菜、花を並べた産地直送コーナーが、住民から好評
- 持続可能な取組への見通し
 - ・平均350人／日の来客、売上約36万円で旧店舗と同水準
- 駅前に活気が戻った、地域コミュニティの核に

<写真・住民から好評の産地直送コーナー>



5 取組上の工夫

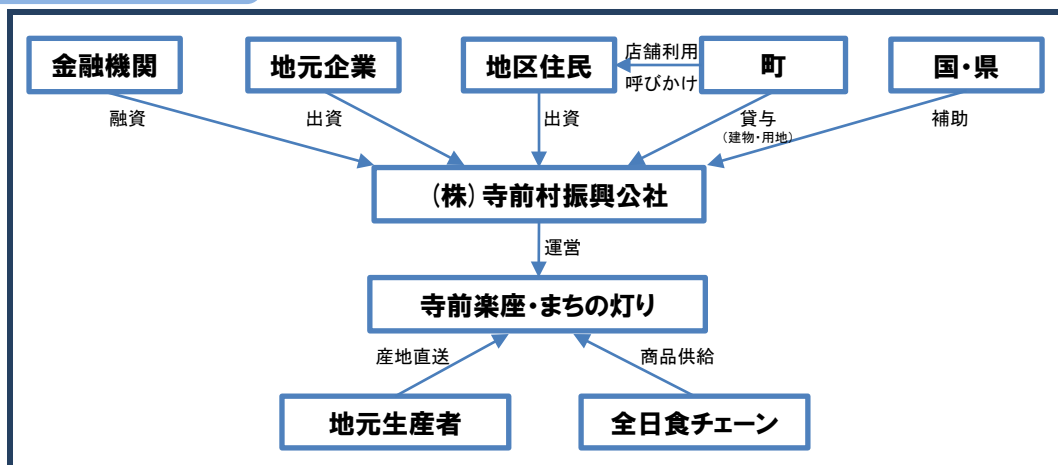
- 地元企業・住民からの出資による「おらが店」の意識づくり
- 旧店舗で好評だった店長、従業員12名が復帰したことで、手作りチラシ作成や地域やお客さんを知り尽くした販売対応が可能
- 全日食チェーンからの仕入れ、地元農産物により、品揃えを充実
- 地域のイベントや行事での仕出し・弁当などにも積極的に対応

6 今後の展望

- 採算ラインとなる地区各世帯1万円／月以上の利用、年商1.6億円が目標
- 生鮮部門の強化、手作り惣菜や弁当の充実など、地元に着目した愛される店を目指す
- 店舗を核とした移動販売も計画中

7 参 考

<取組イメージ>



(2018.11)

【問い合わせ先】 神河町地域振興課、寺前村振興公社

住所: 兵庫県神埼郡神河町寺前64番地 電話: 0790-34-0971(地域振興課)